

鎖国してはいけない

科学面での国際協調こそが、生物テロに対する最高の防御法である。

原文：Isolation is not the answer

Nature Vol.429(603)/10 June 2004; www.nature.com/nature

Thomas May

生物テロの脅威のため、アメリカ国内では科学に関する孤立主義が強まっている。生物兵器に関わる機密情報の公表や「高品質な」研究用生物剤の入手、特定国家出身科学者の養成に関する新たな規制がその例である。科学活動の制限は核兵器の拡散に対しては合理的かもしれないが、生物テロに対するアメリカの国防には逆効果となってしまう可能性がある。

生物テロは、生物剤攻撃による被害が攻撃そのものに限定されず、疾患が広がると考えられる点で、独特の脅威を与えるものである。いかなる場所や地域、国ですら、感染症を封じ込めるのは容易なことではない。世界保健機関(WHO)は、2003年の重症急性呼吸器症候群(SARS)など世界的な疾患の流行に関して、多くの例を詳細に記録している。中国南部で発生して30カ国近くに広がったSARSでは、9カ月間で感染者数が8,098人にのぼり、774人が亡くなった¹。

生物テロ攻撃では、使用される生物剤と攻撃法が最大効果を目指したものになると考えられ、自然発生的な疾患であるSARSをはるかにしのぐ被害が出る可能性が高い。疾患の発生が迅速に把握されそうもない地域で生物剤が使用された場合、封じ込めが困難なほどの強力な足場がひとたび築かれれば、国際的な人の往来の便を利用して「標的」国に疾患を広げることが可能となるであろう。このため、感染症発生の把握と封じ込めのための国際的対策を強化するなど、生物テロの脅威がもつ国際的広がりには留意することが特に重要である。

現在までのところ、国家安全保障の専門家は、この種の攻撃の危険性はかなり低いと考えている²。テロリスト自身を含む標的の外の人に危害を及ぼすという無差別性ゆえに、生物テロは支持が得られないであろうと思われる。しかしこの分析は、合理的な自己利益

に基づくテロリスト行動を予想した陳腐なものであり、現代のテロリストにそのまま当てはめることはできない。

現実的理由から人的被害を抑えようとするテロリストは多いが、新興テロリスト集団は市民の支持をさほど得ようとせず、過激な手段をもっていることが多い。その上、今日のテロリストは自爆(および無辜の市民の殺戮)の意志を示して目的を達成するのが常態化している。

このことに鑑みて、アメリカは生物テロの予防や生物テロ攻撃への対応と封じ込めに最適な戦略を推進しているだろうか。本土防衛優先事項³では、テロリストに潜在的生物兵器を渡さないようにするための外交、情報、法執行(テロリストの資金ネットワーク遮断を含む)、および国境管理という手段に力点が置かれている。いずれも有効な施策ではあるが、現代の生物テロの国際的広がりやアメリカへの最も現実的な攻撃経路に対処するものとしては不十分である。また、アメリカ社会の「開放的」性質がテロへの脆弱さを生み出しているという考え方も広く信じられている³。だが生物テロ攻撃に備える場合、開放的な研究教育体制はアメリカの国防能力のなかで最も重要なもののひとつである。安全保障に関して新しい考え方が強く求められている。

生物テロの脅威が真に国際的なものであるという認識をもって、アメリカは外国の科学者や医療従事者、公衆衛生要員の養成に主導的役割を果たし、疾

患発生の把握と封じ込めに関する国際的態勢を構築しなければならない。これはさまざまなレベルで行われる必要がある。まず、国内外の公衆衛生要員を十分に支援ならびに養成することができるよう、米疾病予防管理センター(CDC; ジョージア州アトランタ)の態勢を充実する必要がある。CDCにとってその種の支援は長年の重点事項であったが、これを拡充するだけの余力がなく、2003年に外交問題評議会⁴は国内要員の養成でさえ「極度の予算不足」であると発表している。次に、感染症の監視と封じ込めに関する体制整備というWHOの取り組みを、アメリカにとっての優先事項としなければならない。生物テロの性格は特異なものであり、国際的健康管理の実際の体制整備が従来型外交と同等の戦略的重要性をもっている。

おそらく最も重要なのは、アメリカの学術



GETTY IMAGES